



# Cartas

月田秀子様

ポルトガル語でお手紙を送る非礼をお許してください。ただ、それには理由があります。

1988年、はじめてあなたのファドを聴きました。多分RTPのカルロス・クルスの番組でのことだったと記憶しています。そして、わたくしにとってそれは素敵な驚きでした。

様々な理由から深く感動し、誇りに思いました。

ポルトガル人と日本人は十六世紀の鉄砲伝来を通して出会いました。鉄砲を介しての日本デビューが果たして良い始まりだったのかどうかは別ですが…。我々は歴史的にも関係を持っています。しかし、アマリア・ロドリゲスが悠久の歴史を持ち、真の意味で特別な日本文化に深く、そして重要な影響を残したことには驚きました。

つぎに驚いたのは、あなたがポルトガル人のように、訛りもなく、正確な発音でファドを歌うことでした。最初は、まったくポルトガル語を知らず、耳で覚えたポルトガル語でファドを歌っていたと聞き、驚きました。

さらに、東洋的な美しい瞳を持つ日本女性であることを忘れさせてしまうほどのあなたのファドに対する愛情には感動しました。ポルトガル的な、独特な感情表現をもつファドに対するあなたの情熱は感動的です。あなたの喜びに満ちた「Havemos de ir a Viana」を聴いたときの驚き、そして聴いて楽しかったことを今でも覚えています。

先月12日の「Correio da Manhã紙」の記事を通してあなたの音楽家としての活動と社会的な名声を知りました。ポルトガル料理を紹介する優れた活動を含め、あなたの活動と名声が400名もの日本人を月田ファドクラブに集めていること、そして現在まで4枚ものレコードを録音されていることを知りました。

今、それらを聴いてみたい気持ちでいっぱいです。そして、あなたがポルトガル対して抱いている愛情に、今度は私が恋をしたいと思っています。郵送が簡単なカセットかCDはないのでしょうか？着払いで送っていただければ嬉しいのですが。

あなたの愛、そして激しく狂おしいほどの情熱は、ラテン的に感じられます。それは取り違えようのないものであり、つける薬の無いものです。よくは知らないのですが、私が想像していた日本人の愛の心理から考えると、とてもファンタスティックな新発見でした。愛はユニバーサルなものだとは思いますが、この一般的真理は各々の文化に影響されて変化するとも思っています。

あなたの住所はリスボンの日本大使館で教えていただきました。

私も詩を書きます。そこで、あなたへの敬意を表すものとして、「日本のファド」を作詞して贈ります。そのためにも、あなたの文化的・感情的（心情的）な精神、愛を前にしての日本人のふるまい、それも身体的だけでなく精神的なものを含め、などを教えて下さい。それともファドは愛の解に対してユニバーサルなものなのでしょうか。しかし、サウダーデはあなたを含め、私たちポルトガル人だけのものだと思います。

ポルトガルであなたのことが報じられなくなって随分と経ってしまいました。それをすべき機関の不注意、無関心などは無責任な欠

陥だと思えます。

ポルトガルの音楽市場は粗野な英語表現を用いた、我々の音楽文化を全く知らない外国人たちに侵略されています。そして残念ながらこれら外国人ミュージシャンは多くのファンによって受け入れられています。しかし、幸いなことにポルトガル人たちは、まだ自分たちの歌手やバンドを愛しています。そして、ここには良い音楽を楽しむ空間と設備も揃っています。エキスポの「Parque das Nações」はその好例で、そこでは忘れ難い、心を動かす音楽が演奏されました。

ポルトガルと日本を隔てる距離は、我々にあなたの重要性を忘れさせてしまうほど大きいものです。ポルトガルで生まれなかったポルトガル人であり、粗野な英語圏の人々には真似が出来ない、原初的なポルトガル語で歌うあなたが、いったいどのようにしてこの地理的な距離に耐えているのかを考えると感動します。多分、非常に豊かな感性に支えられているのではないのでしょうか。

近況をお知らせ下さい。そして、私からの贈り物を送ります。

私は、あなたの歌に恋をした傾聴者であり、批評家です。そして、私たちの文化遺産を熱心に守りたいとも思っています。

このショールに縛られたあなたの手にキスを、この題名のファドを友人のファディスタ、ジーナ・ゲーラが録音しています。）

そして、敬意と友情をこめて、

ジョアオン・カルロス・テーレス・アフォンソ



7月7日三裕の館でのライブを終え、いつの間にか日課になってしまったファド倶楽部のホームページを開いても、何も出てこない。予告どおりホームページは消えてしまった…。眠れない夜が続いた。そんなある日、ポルトガルから分厚い手紙が届いた。A4の紙3枚に裏表びっしりと手書きのポルトガル語で埋まっている。まず、アルファベットの解読からしなければならぬ程の個性的な文字を私の目はひたすら追ったびっしりと文字の詰まった手紙は、結構批判的な内容が今まで多かつたし、その頃精神的に打ちめされていたせいもあって、何時批判を浴びせられるか不安が先に立った。一ページ目を読み終えない内に、私は、両手で顔を覆い泣き伏してしまった。日本人同士でありながら、気持ちの通じないことが多いのに、ああ、ポルトガルにこんなに私の歌を愛してくれている人がいるのだ。10年も前に聞いた声を覚えてくれている人が…。

はるかポルトガルの地に生きる人が、東洋人の月田秀子の唄をどういう思いで聞いているのか知ってほしくて、大使館の日置氏のご厚意で訳していただいたものを掲載させていただきました。送っていただいた詩に関しては、判読できない文字もあつたりで、今回は掲載を見合わせさせていただきます。

早速「ファド・メノール」と「私の憂い」2枚のCDを送った。

その後、間もなくして、サンジュスタのエレーベーターを買った展望台からのリスボンの町並みの彼の版画が、送られてきた。額を買って行くのもまどろこしくて、ありあわせの額に入れたその絵は、ちょっと窮屈そうに額に収まり、いまでは毎日私を見守ってくれている。お陰で、丘の上に立つサンジョルジュ城とその下に広がるリスボンの家並みを見下ろしながら、町の喧騒を聞くことも、その上に広がるリスボンの抜けるような青い空を仰ぎ見ることも、いとも簡単にできるし、突然降り出すあのバケツをひっくり返したような大雨にびしょ濡れになることもある。その版画と共に送られてきた手紙には、CDへの賛辞と共に、詩の誤りも指摘した上で、わからないことがあれば何でも尋ねてくれ、日本で悪戦苦闘している秀子に喜んで手助けをしたいと書いてあった。

「Obrigada!」（ありがとう）を繰り返すしかない語学力のなさが、何ともまどろこしい月田です。（月田）



読切連載  
秀子のエピソード帖 [その18]  
内間 天馬

## 月田秀子における 「間違いだらけの男選び」の研究

Tと別れて何年になるだろうか。或る日、突然、私の前に現れ、すり寄ってきたT。振り向けば愛。気が付けば居候。あの愛の暮らしの日々それはもう遠い日の事。思い出したくない過去。だのに昨夜のSは、あのTを思い出させたわ。少し不本意な気持ちもあったけど、追い出さざるを得なかったのよね、私としては。うなだれて出て行ったS。ドアに鍵をかける私には一筋の涙。「二人でドアを閉めて…」と歌ったのは尾崎紀世彦だった。TもSも私にはとても優しくかった。でも社会的には×だったわ。「みんなは悪く言う、だけど私には優しくかった」まるで松尾和子の「再会」みたいね。だけど、一緒に世間様と戦う気もなければ、一緒に逃げる気もなかった。あんな事件があれば私だって考え込むわよ。近所の惣菜屋のおばさんが怒鳴り込んで来た時はほんとに驚いたわ。「お宅のS、うちのトンカツを2枚も万引きしたわよ。」いつも部屋でゴロゴロしていたS。少しくらい働きなさいよ、と言う私の苛立ちに、万引きで答えた哀れ

なS。Tの時も事件があったわ。彼の仲間が大勢でおしかけてきて、「Tを出せ！」よほど世間に迷惑をかけていたみたい。事情を知らない私はうろたえるばかりだった。Tと別れて、もう男はこりこり、と思っていた矢先に現れたS。Tより小柄だけど、ひげの立派なS。そして、連日、ご近所からの苦情の山…。「小さい時に万引きをしたことがある」と言って、文化勲章を辞退した国民的作家がいた。け。「生き物というもの、よい事もすれば、同時に悪い事もする」って、池波正太郎さんも言ってたわ。だけど、私はもうこりこりなの。もう二度と帰ってこないで。ドアの鍵を替えながら、失意の秀子は一人ごちた。「買ってあげた首輪は私からのせめてものはなむけよ。」えっ、秀子さん、首輪って？「Tって犬の拓也、Sは猫の慎吾。どちらもオス。」なんだ、びっくりしたなあ、もう…ところで、人間の男に関してはどうなんですか？小生にはちんぷんかんぷんのポルトガル語でまるでファドを唄うように答えてくれた秀子さん。「感じ合っと思えば、勘違い。喰い違うどころか、食いちぎられて、信じ合うどころか、縛り合い。すべてを与えてもなお満たされることのない心。わかっているのに変えられない、私の運命。間違いだらけの男選び。」彼女の表情だけを頼りの馬流の日本語訳に、ほほ笑みながら小生をニツとにらんだ秀子さんの瞳に光るものを見たというのは、毎度ながらの小生の勝手な思い込みかもしれませんが…。そして、それがファドだったのか、月田さん自身の歌だったのか、いまだに謎なのです。今回の結論…ようわかりませン。

# vamos cantar!

## 私のあやまち

訳詞 Caldo Verde

私のあやまち、不運、燃えるような恋が  
共謀して 私を破滅に追いやった  
あやまちと不運は余計であった  
恋だけで充分だったものを

すべて過ぎたことだ しかし 今もこの胸が痛む  
過ぎた事どもの 深い傷のために  
狂おしいほどの悔しさが 私に教えてくれた  
望むべくもないが もはや満ち足りた日々はないと

生きてきた歲月 何もかも間違えた  
所詮 無理な望みを抱いては  
運命に懲らしめの口実を与えてしまった  
所詮 無理な望みを抱いては

恋は つかの間の錯覚に過ぎなかった  
ああ、私に巢食う復讐の虫を  
誰が満足させ得よう  
恋は つかの間の錯覚に過ぎなかった  
ああ、私に巢食う復讐の虫を  
誰が満足させ得よう

## Erros Meus

Música: Alain Oulman  
Letra: Luis de Camões

Erros meus, má fortuna, amor ardente  
em minha perdi ao se conjuraram;  
os erros e a fortuna sobejaram,  
que para mim bastava o amor somente.

Tudo passei ; mas tenho tão presente  
a grande dor das cousas, que passaram,  
que as magoadas iras me ensinaram  
a não querer já nunca ser contente.

Errei todo o discurso de meus anos;  
dei causa que a fortuna castigasse  
as minhas mal fundadas esperanças.  
as minhas mal fundadas esperanças.

De amor não vi senão breves enganos.  
Oh!quem tanto pudesse que fartasse  
este meu duro génio de vinganças!  
de amor não vi senão breves enganos.  
Oh!quem tanto pudesse que fartasse  
este meu duro génio de vinganças!

- 12月のバリでの「ワールド・カウントダウン・2000コンサート」は、残念ながら結局、最終日31日の会場が押さえられず、中止になりました。
- 9月7日放映のNHK「千客万来」のスタジオまで応援に駆け付けて下さった皆様、ありがとうございました。放映後、NHKへの問合せが殺到したとのことで、反響の大きさに驚いています。ただし、この番組は関西方面向けでした。
- 事務局を手伝ってくれていた谷口君が辞めたため、残念ながら、事務局は月田の自宅に戻りました。併せて、谷口君が作ってくれていたインターネットのファド倶楽部のホームページもなくなり、今暫定的に作っていただいているホームページは以下の通りです  
【<http://www.asahi-net.or.jp/~wc3k-smz/FADO/menu.html>】

## <月田秀子のスケジュール>

10月 1日(金)	東京・新宿「マカオ・セミナー」		
6日(水)	大阪・南方「三裕の館」	* 問合せ	tel:06-6304-1745
18日(月)	大阪・心斎橋「アート・クラブ」	* 問合せ	tel:06-6212-2870
20日(水)	長野・「松本市音楽文化ホール」 五木寛之監修—スミセイライブミュージアム —ご招待券あります。早めに月田までご一報下さい。	* 問合せ	tel:06-6311-0618
21日(木)	北海道・札幌「道新ホール」	* 問合せ	tel:011-241-5161
22日(金)	北海道・函館「金森ホール」	* 問合せ	tel:0138-27-3700
28日(木)	京都・四條河原町「巴里野郎」	* 問合せ	tel:075-361-3535
30日(土)	京都「法然院」	* 問合せ	tel:090-3274-7289

\*10月のアートクラブでのライブは、第3週目の月曜日です。

11月 3日(水)	大阪・南方「三裕の館」	* 問合せ	tel:06-6304-1745
6日(土)	長野・小諸「小諸ユースホステル」	* 問合せ	tel:0267-23-5732
7日(日)	山梨・甲府		
17日(水)	大阪・桜橋「サンケイホール」	* 問合せ	tel:06-6345-5062
26日(金)	東京・王子「北とびあ・つつじホール」	* 問合せ	tel:03-5390-1221
27日(土)	横浜「ラパロクラブ」	* 問合せ	tel:045-212-5060
29日(月)	大阪・心斎橋「アート・クラブ」	* 問合せ	tel:06-6212-2870

\*11月の巴里野郎でのライブは、お休みさせていただきます。

12月 1日(水)	大阪・南方「三裕の館」	* 問合せ	tel:06-6304-1745
2日(木)	大阪・心斎橋「セブドール」	* 問合せ	tel:06-6768-0196
27日(月)	大阪・心斎橋「アート・クラブ」	* 問合せ	tel:06-6212-2870
30日(木)	京都・四條河原町「巴里野郎」	* 問合せ	tel:075-361-3535

### <編集後記>

人の温情に応えることの難しさを思い知った夏でした。自然の猛威の前に翻弄される命、生活の営みを破壊してゆく戦争、見えないところで、いつの間にか、むしばまれてゆく人間の尊厳、自由。決して他人事ではない。実りの秋です。なぜか、ベランダの木々は枯れ、雑草ばかりが逞しくはびこっています。(月田)

### 月田秀子ファド倶楽部ホームページ

<http://www.asahi-net.or.jp/~wc3k-smz/FADO/menu.html>

- 月田秀子ファド倶楽部ジャーナル 第24号
- 1999年10月1日発行(季刊:年4回発行)
- 編集・発行「月田秀子ファド倶楽部」事務局
- 〒543-0023 大阪市天王寺区味原町2-10-502
- TEL&FAX 06-6765-4808